

骨粗鬆症治療患者の

「顎骨壊死」と「骨卒中」を予防しよう！

～薬剤関連顎骨壊死ポジションペーパー2023の要点～

日時 **10月13日（日）**
14:00～17:00

*今回はZOOM配信は行っておりません

講師

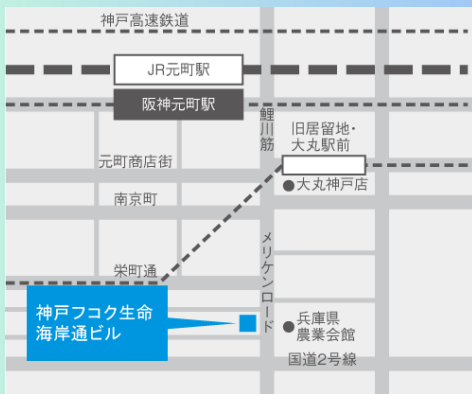
兵庫医科大学病院
歯科口腔外科診療部長・主任教授

岸本 裕充 先生



会場 兵庫県保険医協会会議室

- ・神戸フコク生命海岸通ビル5階
- ・JR・阪神「元町」駅東口から南へ徒歩7分



⇒協会未入会の先生はこの機会にご入会の上ご参加ください（入会金なし:月会費：歯科開業医5,000円、同勤務医3,000円）

*お問い合わせは078-393-1809まで



骨粗鬆症治療薬のうち骨吸収抑制作用を有するビスホスホネートとデノスマブは、根尖病変や歯周病による顎骨への炎症が持続すると、顎骨壊死を生じるリスクがあることが明らかとなってきた。

破骨細胞による骨吸収と骨芽細胞による骨新生のバランスが骨のリモデリングには重要であるが、ビスホスホネートは骨吸収を強力に、かつ年単位で抑制する。歯科治療を行う上で、血液をサラサラする抗血栓薬と同様に、本音を言えば、使用して欲しくないクスリではある。しかしながら、血栓による心臓発作や脳卒中と同様に、骨粗鬆症患者の脆弱性骨折は生命予後を悪化させるため「骨卒中」と考えることが提唱されている。

菌性感染症による炎症を制御するための抜歯などの歯科処置について、医科と歯科が共通認識を持って連携する必要性が高まっている。薬剤関連顎骨壊死のポジションペーパー2023の要点の解説を中心に、連携におけるヒントも提供したい。
(岸本記)

10月13日歯科定例研究会 参加申込書 (返信FAX：078-393-1802)

地区〔 市区町 〕 医院名〔 〕
 TEL〔 〕 FAX〔 〕
 氏名〔 〕 職種〔 〕